

中心市街地活性化 好取組事例

人口規模別分類(10～20万人)

市町村名	弘前市（青森県）【平成20年7月9日認定】		人口（平成27年国勢調査）		177,549人
計画期間	平成20年7月 ～ 平成26年3月				
目標指標	中心商店街空き店舗率				
基準値	13.7% （平成18年）	目標値	8.5% （平成25年）	実績値	8.5% （平成25年）
取組概要	○計画区域内の空き店舗に新たに小売・サービス業の店舗を出店する事業者に対し店舗改修費等の補助を実施し、空き店舗の利活用の促進を図った。 ○商店街振興組合等と連携し、空き店舗情報を収集してポータルサイトを活用した情報提供を行い、情報の集約や地権者と利用・取得希望者のマッチングの支援や、専門家を活用した空き店舗への魅力ある業種・業態の誘致、県の融資を活用して開業する者に対して、市が保証料や利子の一部を補助する支援を実施した。 ○上記施策を中心市街地活性化協議会や関係各団体と密に連携しながら一体的に推進した結果、中心市街地の空き店舗率は大幅に改善され、中心市街地の賑わい創出に繋がった。  ＜空き店舗を活用して開業した飲食店＞  ＜中心商店街の様子＞				

市町村名	土浦市(茨城県)【平成26年3月28日認定】		人口(平成27年国勢調査)		140,804人
計画期間	平成26年4月 ～ 平成31年3月				
目標指標	観光関連施設利用者数				
基準値	98,822人／日 (平成24年)	目標値	113,039人／日 (平成30年)	実績値	121,770人／日 (平成30年)
取組概要	○川口二丁目地区整備事業は、土浦駅から徒歩約10分に位置する当該地区に、霞ヶ浦の眺望を活かした複合レクリエーション施設を市と民間事業者の連携により整備し、交流人口の拡大を図る事業である。民間事業者による開発意欲の醸成にまでは至らず、事業全体としては完了していないが、市が先行整備したサイクリスト向け交流施設「りんりんポート土浦」は、電車利用のサイクリストをターゲットにした土浦駅ビルのサイクリング拠点との住み分けがなされ、新たな交流拠点としてサイクリストを中心に注目を浴びている。 ○土浦駅ビルでは茨城県の施設である「りんりんスクエア土浦」の整備を皮切りに、駅ビル全体のサイクリング拠点施設としての再整備が進められるなど、総延長180kmのサイクリングコース「つくば霞ヶ浦りんりんロード」の結節点という立地を活かし、サイクリングによる地域振興に県や民間事業者とも連携して取組んでいる。 ○さらに、県や周辺市町村と連携したレンタサイクルの拡充、サイクリストが安心して休憩・食事できるサイクルサポートステーションの登録、霞ヶ浦遊覧とサイクリングを両方楽しめるサイクルーズや初心者でも楽しめるサイクリングイベントの実施など、ソフト事業やプロモーションを充実させたことにより、来街者の増加を促し、目標値を達成できた。 ○今後は、交流施設の効果的な活用や周辺観光拠点との連携を高め、地区の魅力をさらに向上させるとともに、未完了部分に対する民間活力の導入を進めていく。   <交流施設「りんりんポート土浦」> <交流施設でのイベントの様子>				

市町村名	大垣市(岐阜県)【平成21年12月7日認定】		人口(平成27年国勢調査)		159,927人
計画期間	平成21年12月 ～ 平成27年11月				
目標指標	休日歩行者・自転車通行量の増加				
基準値	9,400人/日 (平成21年度)	目標値	9,700人/日 (平成27年度)	実績値	9,734人/日 (平成27年度)
取組概要	○再開発事業は予定どおり実施されなかったが、計画期間中に整備した奥の細道むすびの地への観光客の増加や、毎月開催している中心市街地商店街元気ハツラツ市が好評であり来街者の増加により、事業効果が得られている。 ○平成28年9月には遅れていた再開発事業が完了し、中心市街地の魅力は更に高まるものと考えられる。  ＜奥の細道むすびの地記念館オープニングセレモニー＞  ＜水の都おおがき たらい舟を楽しむ観光客＞				

市町村名	藤枝市（静岡県）【平成25年3月29日認定】		人口（平成27年国勢調査）		143,605人
計画期間	平成25年4月 ～ 平成30年3月				
目標指標	歩行者通行量				
基準値	8,738人 （平成23年）	目標値	10,350人 （平成29年）	実績値	10,435人 （平成29年）
取組概要	○藤枝駅南口開発B街区複合施設整備事業により、ホテルやバンケット、結婚式場、商業施設、オフィスなどを兼ね備えた複合施設が平成28年3月にオープンし、施設利用者数は順調に増加している。 ○市立総合病院跡地を活用した複合商業施設であるBiVi藤枝内に、平成25年4月に美容学校が開校、また近隣の静岡産業大学の駅前キャンパスと連携した藤枝市産学官連携推進センターを開設する事業を平成29年11月に基本計画変更にて新たに追加するなどしたことにより、学生を中心とした若者の活動量が高まった。 ○民間による大型マンションや駅南口商業施設などの整備により来街者が増えたことに加え、イベント広場として一部整備された駅南口広場や駅南北のメイン道路を中心とした、年間を通じた様々な民間主体等によるイベント実施（て～しゃばストリート、ラブローカルマーケット等）が歩行者通行量増加の一因となっている。 ○駅南地区では事業が順調に進んだこともあり歩行者通行量が増加した一方、駅北地区は事業が遅れていることもあり、歩行者通行量は減少傾向が続いている。また、歩行者通行量を時間帯別にみると、昼間の時間帯（午前9時～午後5時）では減少傾向がみられるなど、昼間の賑わいという点で課題を有していることから、今後は昼間の活動や交流を生み出す施設の整備や立地誘導、仕掛けづくりに取り組む必要があると考えられる。  <藤枝駅南口開発B街区複合施設整備事業>  <藤枝市産学官連携推進センター>				

市町村名	東海市(愛知県)【平成23年6月29日認定】		人口(平成27年国勢調査)		111,988人
計画期間	平成23年7月 ～ 平成28年3月				
目標指標	中心市街地の居住人口				
基準値	3,265人 (平成22年)	目標値	3,400人 (平成27年)	実績値	4,032人 (平成27年)
取組概要	○東海太田川駅周辺土地区画整理事業、市街地再開発事業などにより良好な景観が保たれ、快適に暮らせる環境が整備されたことで居住人口が増加した。 ○市街地再開発事業により住宅が供給されるなど、計画に位置付けた事業を予定どおり実施することで目標値を達成した。さらに、大型商業施設、芸術劇場、大学の整備など、居住環境の改善の効果が中心市街地で波及し、当初は予定していなかった民間の投資を呼び込んだことで目標値を大きく上回った。 ○今後は市民参画の推進や市民との協働と協創による地域の再生・活性化などの課題解決に向かって、住民のまちづくりの意識や地域コミュニティの強化を図り、更なる効果の発揮を目指す。  <市街地再開発事業>  <人が多く集まる芸術劇場>				

市町村名	長浜市（滋賀県）【平成21年6月30日認定】		人口（平成27年国勢調査）		118,230人
計画期間	平成21年6月 ～ 平成26年3月				
目標指標	宿泊者数				
基準値	309,300人 （平成19 年）	目標値	339,000人 （平成25 年）	実績値	366,800人 （平成25 年）
取組概要	○長期間空き家となっていた伝統町家を、宿泊施設やゲストハウスとして活用するなど、これまでから取り組んできたオールドタウンの再生をさらに進め、面的な魅力の強化を図った。 ○計画事業として整備された産業ミュージアムのほか、複数の観光施設がオープンし、観光地としてのポテンシャルが高まり、観光客の回遊性が向上した。 ○上記事業にあわせて、ロングランイベント等のソフト事業を実施したことにより、認定以降は宿泊者数がほぼ増加傾向で推移し、商業観光都市としての魅力向上、誘客促進といった効果が生まれている。 ○今後は、さらなる魅力づくりを展開するとともに、滞在型観光施策を推進し、多様な人々を迎え入れ活発な交流が生まれる中心市街地づくりを進める。  <町家ゲストハウス>  <産業ミュージアム>				

市町村名	草津市（滋賀県）【平成25年11月29日認定】		人口（平成27年国勢調査）		137,247人
計画期間	平成25年12月 ～ 平成31年3月				
目標指標	平日歩行者通行量				
基準値	11,067人 （平成24年）	目標値	11,709人 （平成30年）	目標値	12,967人 （平成30年）
取組概要	○アニマート跡地賑わい空間整備事業では、低未利用地であったJR草津駅前に緑化広場と商業テナントを整備した。まちづくり会社と市民団体の協働で植栽管理が行われており、高質な緑化空間が維持され、市民の憩いの場となっている。また、イベントも定期的開催されるようになり、新たなにぎわいが見られる。 ○東海道・草津宿テナントミックス事業では、中心市街地再生事業費補助金を活用し、空き店舗が増加している本陣周辺エリアにおいて、歴史的景観と調和するなど、土地柄にあった魅力的な商業店舗の整備を行った。出店によって新たなにぎわいが創出されたことに加え、同エリアへの出店に関する問い合わせが増加するなど地域の商業的価値の向上につながった。 ○草津川跡地賑わい空間整備事業では、廃川敷地に「ガーデンミュージアム」をコンセプトとした緑化空間や広場、避難場所を整備した。de愛ひろばと呼ばれるこの場所は、市民や来訪者の憩いの場として、また散歩やランニングコースとしても利用され、草津の新たなスポットとしてにぎわいを見せている。 ○草津川跡地テナントミックス事業では、地域・まちなか商業活性化支援事業費補助金（中心市街地再興戦略事業）のうち先導的・実証的事業を活用し、「クサツコリバ」としてde愛ひろば内に3つの店舗を整備した。安定した来客があり、店舗利用前後にde愛ひろばに向かう人の流れができています。 ○今後は、整備した各拠点をつなぐ事業を実施し、にぎわいを面的に広げ、人が行き交う中心市街地を目指す。  <東海道・草津宿テナントミックス事業>  <草津川跡地賑わい空間整備事業>				

市町村名	津山市（岡山県）【平成25年3月29日認定】		人口（平成27年国勢調査）		103,746人
計画期間	平成25年4月 ～ 平成31年3月				
目標指標	人口の年間社会動態平均				
基準値	-16人 （平成19～23年の平均）	目標値	±0人 （平成30年）	実績値	2.2人 （平成30年）
取組概要	○医師専用集合住宅整備事業により整備した単身赴任の医師専用住宅については、ほぼ満室状態が続いており、医師不足の解消と居住環境の改善や利便性の向上に寄与している。これと併せて養護老人ホーム整備事業、高齢者向け施設整備事業、社会資本整備総合交付金を活用したサービス付き高齢者向け住宅等整備事業の完了により、中心市街地への移住が促進され、社会動態の増加につながった。 ○また、まちなか子育て支援事業により中心市街地にある複合施設内において乳幼児や保護者が交流できる拠点施設と子どもの一時預かりを行う施設を整備し、中心市街地の居住環境の向上が図られたことにより転入者が増加している。 ○今後は健康や子育てをテーマにした事業との連携や、地域コミュニティ形成の促進などに取組むとともに、引き続き、まちなかの環境整備や利便性向上を図る取組みにより街なか居住へ誘導していく。  <養護老人ホーム整備事業>  <まちなか子育て支援事業>				

市町村名	沖縄市（沖縄県）【平成22年3月23日認定】		人口（平成27年国勢調査）		139,315人
計画期間	平成22年3月 ～ 平成28年3月				
目標指標	都市福利施設年間利用者数				
基準値	907,457人 （平成20年）	目標値	1,021,057人 （平成27年）	実績値	1,219,777人 （平成27年）
取組概要	○老朽化した体育館や野球場など体育施設の建て替えや、動物園におけるエスカレーター設置をはじめとした大幅リニューアル等、既存施設に新たな機能を付加することで、利便性が向上し利用者が大幅に増加した。 ○社会福祉センターと男女共同参画センターの複合施設を整備したことで、新たな地域福祉の拠点となり、市内の福祉団体等が入居するほか、会議・講座等で多くの方に利用されている。 ○今後は、市民ニーズの高い事業である老朽化した図書館の移転・整備等を行うことで、さらなる中心市街地の魅力向上を図る。  <建替えを行った沖縄市営球場>  <社会福祉センター・男女共同参画センター>				